

中野 寛之 議員

(一問一答方式)



- ①少子化対策・子育て支援
- ②肱川を活かしたまちづくり
- ③地方移住の支援金拡充
- ④ふるさと納税の推進
- ⑤マイナンバーカードの利活用

少子化対策・子育て支援について

問 「えひめ人口減少対策総合交付金」の活用方針と、少子化対策や子育て支援の拡充のためには、他市町で取り組まれている事例も参考にする必要があると思うが、いかがか。

答 愛媛県と市町が連携し、地域の実情に応じた少子化対策を積極的に展開できるよう支援する目的で、令和5年度よりえひめ人口減少対策総合交付金が創設されますが、市町の提案型事業についても交付金の対象となり得るため、現在、様々な角度から支援策の検討を進めています。

本市でも、子育て支援、少子化対策は、来年度の重点事業の一つに掲げ、高校生世代までの子ども医療費無償化をはじめ、三善・八多喜地区認定こども園施設整備事業、老朽化した徳森保育所の移転整備を行う徳森認定こども園移設整備事業、また、学習環境の改善と木育環境教育を推進する児童・生徒用木製机椅子整備事業など、子育て世帯が暮らしやすい環境づくりと教育・保育環境の充実に取り組むこととしており、関連事業51項目で約2億4,000万円の予算を計上しています。

また、少子化対策においては、子育てに関する相談事業や経済的支援のみならず、雇用を確保し、安定的な結婚生活の見通しが持てることや結婚後の就労機会の確保など、子育てしやすい職場環境づくりへの企業支援も大切であると考えています。

これらを踏まえ、愛媛県が創設した新たな交付金の活用については、各自治体の先進事例も参考にしながら、本市としてより効果的な少子化対策、子育て支援対策の検討を進め、6月補正予算に提案したいと考えています。

肱川緑地公園のリニューアルについて

問 肱川かわまちづくり計画によって肱南側に引き続き、肱北側の緑地公園のリニューアルが示されたが、景観の良さ、また、商店街との連携が図りやすい場所でもあり大いに期待をしている。その概要と今後のスケジュールはどうなるのか。

答 整備の概要としては、現在の駐車場の配置換えを行い、緑地広場、多目的広場を整備するもので、緑地広場は、堤防の中段から管理用道路に向けて緩やかに傾斜をつけることでイベント時の観客席としての利用ができるつくりとします。

また、樹木が取り囲む多目的広場は、キャンプやバーベキュー、マルシェなどの利用を想定したエリアとし、駐車場は、緑地公園の中心部辺りに配置します。今後の予定は、令和5年度に国交省において、緑地の盛土や駐車場などの基盤整備を行い、令和6年度に市において、張り芝やベンチ、公園等などの上物整備を行う予定にしています。

マイナンバーカードの利活用の拡大について

問 マイナンバーカードの普及率をさらに上げていくためには、実際に使える事業の拡充をしていく必要がある。様々な利活用の拡大についてどのように考えているのか。

答 本市では、DX推進計画において、行政、市民、産業の3つの分野のDXを推進することとしており、その推進のためには、マイナンバーカードが必要不可欠なものであり、引き続き普及率の向上に取り組んでいく必要があると考えています。

利活用の取組としては、2月27日から住民票の写しや税の証明書などを窓口で取得する際に、マイナンバーカードを持参して暗証番号を入力すると、申請書などを書かずに証明書を取得することができるよう「書かない窓口」を開始したところです。

さらに、マイナンバーカードを利用してコンビニエンスストア等の店舗内に設置されているマルチコピー機のタッチパネルを操作することで、各種証明書を取得できるコンビニ交付についても3月20日からサービス開始できるよう、最終的な調整作業に入っています。